

## 小学校「社会科・国語科」における哲学対話の実践研究 ～ファシリテーターとしての教員養成を目指して～

松島 恒熙（信州大学 教育学部 助教）

### 研究背景と目的

『小学校学習指導要領』（文部科学省 平成 29 年告示）において、様々な教科・科目・領域で「主体的・対話的で深い学び」が目指されるようになり、そのような学びを促進するための手法として「哲学対話」が各地の学校で導入されつつある。しかしながら、学習指導要領において様々な教科・科目・領域で「主体的・対話的で深い学び」が目指されているにもかかわらず、日本国内の学校における「哲学対話」の導入は、「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」など、特定の場面での実施に限られている（河野ほか 2020、中岡ほか 2021）。そこで本実践研究では、哲学対話との親和性が比較的高いとされる具体的な教科として、**社会科**と**国語科**を導入の対象とする。さらに教員養成課程においてファシリテーター養成（哲学対話）授業を定期的実施し、その受講生らも小学校社会科・国語科での哲学対話に参加する機会を作ること、新たな小大連携のモデルを構築する。

### 研究内容と研究方法

#### 研究①：哲学対話の理論研究に基づく教員（ファシリテーター）養成授業の開発

・教育学部の学生向けに、哲学・倫理学の科目（1 クラス 40～60 名ほど）において哲学対話を定期的実施し、ファシリテーター養成を目指す。さらに、その実践例を積み重ね、アンケート調査を実施・分析し、その結果をもとに『**教員養成課程における「哲学対話」授業 シラバス・教材案**』を作成・製本する。

#### 研究②：小学校社会科・国語科における哲学対話の応用実践

#### 研究③：小学校社会科・国語科における哲学対話実践のための事例集/教材の開発

・附属小学校、公立小学校、私立小学校の社会科・国語科において、その単元や内容に応じて問いを立て、哲学対話を実施する。その対話内容を記録するとともに、実施後にアンケート調査や論述調査を実施し、量的・質的に分析する。それらの結果をもとに、『**小学校「社会科」「国語科」における哲学対話 実践事例集**』を作成し出版する。

### 結果・成果

- ・**教員養成課程における実践**では、52 回分の哲学対話を実施することができ、受講生たちがファシリテーターのあり方を理論的に学ぶことによって、小学校での哲学対話においても自身のファシリテーションを詳細に振り返ることができた。
- ・**小学校社会科における実践**では、食糧生産や工業、歴史など様々な単元において問い立て、哲学的に対話することで内容理解も深まることが示された。（詳細なデータや対話内容、分析などは、『**実践事例集**』を参照されたい。）
- ・**小学校国語科における実践**では、詩や物語、言語活動など様々な単元において、内容に沿った問いやテーマを選定できたことで、作文（書くこと）にも影響が見られた。（詳細なデータや対話内容、分析などは、『**実践事例集**』を参照されたい。）



### 今後の課題

- ・哲学対話は、その都度の「探究の共同体」による 1 回限りのかけがえのない対話であり、その内容を量的・統計的に分析することには限界がある。子ども一人一人の対話内容を質的に分析し、その発言・言葉に込められた「思い」をお互いに理解しようとする「ケア的思考」や「知的安全性」がファシリテーターに求められる。

### 共同研究者（共同探究者 co-inquirers :Lipman 2003）

新井雄太（上田市立武石小学校、応募時：信州大学教育学部附属長野小学校）  
関康平（大日向小学校・中学校）  
大畑健二（長野市立三輪小学校、応募時：信州大学教育学部）

